

地学団体研究会静岡支部編著：
日曜の地学(13)静岡の地質をめぐって

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-07-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 桐谷, 文雄 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025582

書 評

地学団体研究会静岡支部編著

日曜の地学 (13) 静岡の地質をめぐって

本書は築地書館が計画的に主として各県単位に夫々の地方の諸地学団体等に執筆を委嘱して印刷発行されているものの中の一つで、本書を入れて発行されたものは、すでに13都府県に及んでいる。

今回発行の本書の紹介は、すでに地質学雑誌第87巻第2号(1981年2月号)に埼玉大の角田史雄氏が書いておられるが、いささか抽象的である。本県の地質に最も関心を持つ県地学会の会員諸氏が必ずしも日本地質学会の会員であるとは限らないので、もう少し具体的に、ここにその内容について紹介しておきたいと思う。

本書は日曜の地学としてのシリーズの一つであるために、なるべく土曜、日曜を利用して往復可能な各地が選ばれているために東海道線沿線の各地点、各地域がとり上げられて、東から西へと順を追って良い露頭地域の説明が地質学の基礎に触れながらなされている。

各地域毎に案内図や露頭のスケッチ図、断面図、種々の表、写真等が入っており地質的説明も夫々にわかり易く述べられており、県内の中高校生諸君の良い地学の参考書となるばかりか大学生や地学に興味を持っている一般の人々のリクリエーションの際の良い指導書であるといえる。本書の中のスケッチや断面図、地質図等に持参者自身が説明を良く読んで色塗りをしておくと一層理解し易くなるであろう。なお、強いて言わせてもらえば、最後の3章すなわち、静岡県の地震、静岡県の土壌、静岡県の生い立ちが少し難しい様な気がしないでもない。また、静岡県の地質を東部から考えて行くのに、先ず、県の入口ともいえるべき熱海温泉と伊豆東海岸が全く触れられていないこと、丹那トンネル、丹那断層、丹那地震のことが説明されていないことは、何となく県内に住む地質愛好者にとってはさびしい。

富士山については昭和初期、大淵での1,000 m近くのボーリングと天照教祖神社付近で数100 mの横坑掘削が実施されたことなどに一寸触れておけば良かったと思う。このようなことは、そのうち人々から忘れ去られてしまうことであろうと思う。

なお、まだ付加えてもらいたかったことはあるとしても静岡県内の地質を学びたいという多くのの人々にとっては、本会発行の「東海自然歩道の地学案内」と共に良い参考書となることは疑のないところであり、一読をおすすめしたい。B6版、193頁、築地書館1981年1月初版 1,200円

(桐谷文雄、本会会長)